

第2号

# 群大病院 地域連携だより

**病院の理念**  
患者さん中心の医療を推進する

**基本方針**

- 一、高度先進医療の開発と実践
- 一、次代を担う医療人の育成
- 一、地域医療への貢献

## 群大病院病診連携センターについて

病診連携センター長 田村 遵一

群馬大学医学部附属病院「病診連携センター」のセンター長を務めております。総合診療部の田村でございます。日頃のご指導、ご支援に対しまして、この場を借りて御礼申し上げます。

群馬大学には「地域連携」を冠する組織、委員会等がたくさんあり、混乱をさけるためにあえて「病診連携」を名称といたしました。しかし診療所だけでなく、地域の病院や介護/福祉施設、あるいは行政との連携を密にして群馬県地区における医療連携の充実を目指すのは当然の目標です。

以前より県医師会と共同で「特定機能病院連絡協議会」

を運営し、利用者の皆さんや医師会の先生方ができるだけ簡便に利用できるような紹介システムを開発してまいりました。センター発足後、少人数ではありますが、FAXをもちいた予約システムもご利用いただき、さらに逆紹介システムも開発中です。

今後は病病・病診間の単純な紹介、逆紹介のみならず、患者さんの長期的なQOLの向上を目標とした、さらにきめ細かい配慮のできる医療連携ネットワークの充実に積極的に取り組んでまいりたいと思っております。そのためにも是非ともさらなるご指導、ご支援をお願いいたします。

## お知らせ

こんなときは**医療福祉相談部**へどうぞ

- ・病気についての不安や心配
- ・入院生活についての不安や心配
- ・転院先についての相談
- ・退院後の療養や生活の相談
- ・介護についての相談
- ・いろいろな福祉制度についての相談
- ・入院費などに関する相談 など

- 相談に際しては -

- ・ゆっくりとお話を聞きます。
- ・専門機関や施設との連携をとります。
- ・サービスに関する情報を提供します。
- ・相談内容の秘密は厳守します。
- ・相談は無料です。

このような職員が相談をお受けします。  
ソーシャルワーカー、看護師、臨床心理士、事務職員、医師、その他、各分野の専門職員

ご相談は  
**病棟看護師**または**外来棟1階医事相談窓口**へ  
お申し出下さい。

「患者さんの権利と責務」を表示しております。  
院内各所に掲示しておりますので、ご一読ください。

ボランティアを募集しています。  
お問い合わせ先 ☎027-220-7828 医療サービス課患者サービス係

「ご意見箱」を設置しています。  
院内各所にご意見箱を設置しています。皆さんの病院に対するご意見をお聞かせください。

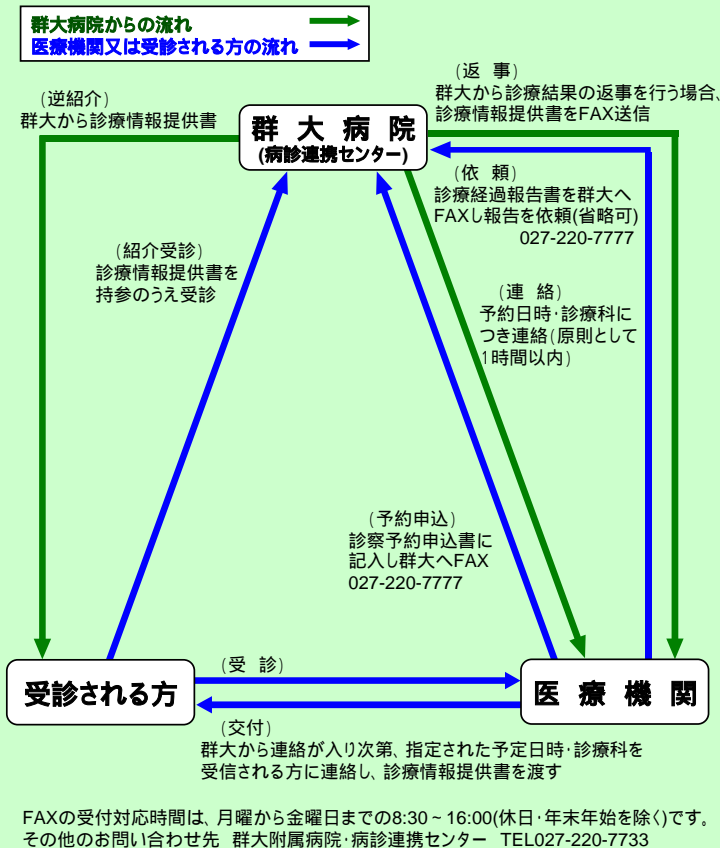
## 外来初診受付日一覧

原則として下記のとおり初診受付を行っております。  
…受付 …紹介状を持参した方のみ受付 …急患のみ受付

診療科名	月	火	水	木	金	備考
呼吸器・アレルギー-内科(一内)						
内分泌・糖尿病内科(一内)						
消化器内科(一内)						
肝臓・代謝内科(一内)						
循環器内科(二内)						
呼吸器・アレルギー-内科(二内)						
内分泌・糖尿病内科(二内)						
腎臓・リウマチ内科(三内)						
血液内科(三内)						初診(凝固のみ)
精神科神経科						
小児科						
呼吸器外科(一外)						
消化器外科(一外)						
乳腺・内分泌外科(一外)						
小児外科(一外)						
移植外科(一外)						
循環器外科(二外)						
呼吸器外科(二外)						
消化器外科(二外)						
乳腺・内分泌外科(二外)						
移植外科(二外)						
整形外科						
皮膚科						
泌尿器科						
眼科						
耳鼻咽喉科						
放射線科						
産科婦人科						水曜日は産科休診 火・木曜日は婦人科休診
麻酔科蘇生科						
脳神経外科						
神経内科						紹介状持参が望ましい
歯科口腔外科						紹介状持参が望ましい
核医学						紹介状持参が望ましい
総合診療部						

専門外来の受診希望の患者さんで、はじめてその診療科を受診される場合は、原則として午前10時30分までに「初診受付手続き」を行ってください。  
紹介状をお持ちでない患者さんで、診療科がはっきりしない方は、初めに総合診療部へおかけください。診察後、院内紹介いたします。

## 地域医療機関との病診連携について



## 地域の先生方に、地域連携のあり方についてそれぞれの立場からのご意見を伺いました。

### 連携において望まれる群馬大学の役割

前橋赤十字病院 院長 宮崎 瑞穂

当院の患者さんの紹介や逆紹介先の施設あたりの患者数リストでは、大きな病院が上位に入っています。連携というと病診連携がまず頭に浮かびますが、病院相互の患者さんの受け渡しも多く、病病連携が重要なことが分かります。連携の基盤は機能分化ですが、病院同士の患者さんの移動が多いのは、各病院の機能分化がすでに行われていることを意味します。

病院の特性からみて、一般病院は通常の疾患を効率的に診療することが求められますが、大学病院は特定機能病院として研究や医師の養成に係わり、高度医療の開発とその普及に努めることが大きな役割であることは言うまでもありません。その実現には大がかりな設備やマンパワー、つまり大きな費用を要

します。しかし国が財政的に逼迫した現状では、その費用負担も難しく、大学病院といえども経済的視点の必要なきことが独立行政法人化の主な理由でしょう。

もちろん効率的な運営は不可欠ですが、私は連携においては大学が地域の医療水準を高める機能を十分に発揮することが重要で、また群馬大学はその責任と能力があると思います。その責任が十分に果たせれば国費を充てることは国民に理解が得られると思います。特に難しい疾患において患者さんが治療を受けに遠方まで出がけなくてもすむように、県民に高度で良質な医療を提供すると共に、良医の養成や派遣、技術指導を通して、我々地域の一般病院が頼れる病院であって欲しいと思います。

### 地域連携のあり方 - 保健所から望むこと -

前橋保健福祉事務所 所長 宗行 彪

我が国は人生80年時代を迎え大変喜ばしいことですが、その反面年をとると共に自分や家族の健康に不安を抱く人も多くなり、また、がん、心臓病、脳血管障害、糖尿病などの生活習慣病で治療を受けている人も年々増加しております。このような中、多くの県民は健康に対して強い関心を持ち、安心して受けられる医療を強く望んでいると同時に今の医療制度にも多くの不安を感じております。自分や家族が病気になった時、どの医療機関で、どのような治療を受け、どのような療養生活を送らなければならないか、患者さんの知りたい情報がなかなか手に入らない、適切な医療が受けられないなどの不満を持っています。このような期待や不満は1カ所の医療機関の努力のみではとうてい解決

できない問題で、それぞれの地域（医療圏）の中にある医療機関や福祉施設、医師会、保健所、市町村等の関係機関相互の緊密な連携が必要です。このことが、病診連携であり、保健・医療・福祉の連携であり、また地域連携であります。群馬県では10カ所の二次医療圏があり、それぞれの医療圏で地域連携が図られていますが、群大病院は群馬県（三次医療圏）唯一の特定機能病院として高度先進医療も担っています。県内の病院、診療所等と病診・病病連携すると同時に、県民に対しても幅広く保健・医療知識の普及啓発や情報の提供、また県や市町村等の保健・福祉行政に対してもこれまで以上の協力を期待したい。

### 大学病院との地域連携 - 診療所から -

高崎市医師会 副会長 釜 范 敏

一般の診療所が大学病院に直接患者さんをお願いする機会はそのほど多くはありません。慣れていないために、今まではどこに連絡をお取りしたらよいか戸惑う場合もありました。どちらの科を受診したらよいかわからない患者さんに対して、すでに総合診療部が大きな役割を果たしておられますが、私ども診療所に対しても、受け入れ窓口として病診連携センターの利用法について、いろいろな機会にお知らせいただければ幸いです。患者さんがなるべく受診しやすいように、私どもにできることを工夫したいと考えております。

高度先進医療の開発と実践

を目指されるにあたり、それぞれの診療科が特に力を入れておられる分野について、私どもにわかりやすい情報提供をいただければ、大いに勉強になるとともに患者さんをお願いするきっかけにもなりうるかと思えます。

診療時間外の救急医療についてもたいへんお世話になっているところですが、特に耳鼻咽喉科、眼科など地域の二次病院では当直医を常時確保することが困難な診療科においては、大学病院で受け入れていただけることが最後の砦となりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

### 地域における老人保健施設との連携について

群馬県老人保健施設協会 会長 高玉 真光

群馬県の老人保健施設は昭和63年老人保健法の制定に伴って発足した。

当時は病院でもなく老人ホームとも異なり中間施設とも呼ばれていた。その老人保健施設は平成12年4月には介護保険のスタートと共に介護老人保健施設となり現在、群馬県には70の施設が誕生し、5200人の入所者が在宅復帰を目指してリハビリテーションに励んでいる。入所されているお年寄りは脳血管障害、骨粗鬆症による骨折、アルツハイマー病やパーキンソン病等の人々でありこの人々の廃用症候群発生の予防に看護、介護に努力している毎日である。高齢者はその生

活歴の長いことから、時には結核に侵された経験者であったりまた肺気腫、糖尿病による合併症、さらに癌を持つ人も少なくない。まさに地域における総合診療科の実践である。昨年開催された病診連携センターの研究会にはさまざまな地域医療のテーマで老人保健施設の研究発表も行われた。この研究会の発表から老人保健施設は地域医療連携の拠点であり、群馬大学附属病院との太い絆で結ばれていることを実感した。今後も更に老人保健施設入所者の健康を守るために役立つ御支援を御願する次第である。



<http://www.med.gunma-u.ac.jp/hospital/>

本紙に対するご感想・ご質問をFAX  
又はご意見箱(院内に設置)にてお気軽にお寄せ下さい。  
医学部総務課文書法規係  
FAX 027-220-7720